

2 オリバシオス『医学集成』におけるガレノス医学の受容

福島 正幸

エディンバラ大学博士課程

一般にビザンツ期の医学は、ギリシア・ローマ世界で発展した医学を保存し、イスラム世界における医学の発展に知識を繋ぐという点で大きな貢献を果たしたものと認識されている。とりわけ、ヒポクラテス以後最も影響力の強かったローマの医師ガレノス(129年–216年)の膨大な記述を整理し、体系化したことで、実践的・経験的なものから教義的なものへの転換が生じさせたとされる。しかし、ビザンツ期の医学書の研究はギリシア語原典の校訂本や近代語への翻訳など一次資料が不足しており、研究は発展途上である。近年、ガレノスの医学書受容という大きなテーマのもと、ビザンツ医学におけるギリシア・ローマの医学文書の受容形態、体系化された理論に焦点を当てた研究が数を増すようになった。これにより、従来看過されていたビザンツ医学そのものの独自性にも着目した分析が行われるようになった。

ビザンツ期の医学は射程となる時代が非常に広いため、一般に前期(4–7世紀)と中・後期(8–15世紀)の二つの時期に大別される。この前期ビザンツ医学を代表する医師としては、オリバシオス(4世紀)、アミダのアエティオス(6世紀)、トラッレイスのアレクサンドロス(6世紀)、アイギナのパウロス(6世紀後半)が挙げられる。本報告では、このうちオリバシオスの医学書編纂に関する分析を行った。

オリバシオスの著作として判明しているものは、『ガレノス文書要約』、『医学集成』、『エウスタティオス宛要約』、『エウナビオス宛要約』の4作品であるが、このうち最も重要な『医学集成』に焦点を当てた。『医学集成』はオリバシオスの最も有名な著作であり、序文には、ユリアヌス帝の命により作成したとある。全体70巻(あるいは72巻)のうち、そのうち26巻が現存しており、摂生法、治療法、薬学、徴候学、解剖学まで幅広いテーマが集められている。この著作には古代ギリシア・ローマの医師たちの記述の抜粋が多数集積されており、そこには、アテナイオス、アンテュッロス、ガレノス、クセノクラテス、ディエウケス、ディオクレス、ディオスコリデス、ピラグリオス、ピルメノス、ピロティモス、ヘロドトス、[アテナイの]ムネシテオス、[キュジコスの]ムネシテオス、[エベソスの]ルポスなどが含まれる。『医学集成』には、副題で直接に引用元が記述されることもあるが、出典が副題で明記されていないことの方が多く、その出典記載のない記述を精査すると、そのほとんどがガレノスからの引用であった。ガレノスと敢えて引用元が書かれていることがあるが、これは同じテーマに関する別の医師たちの記述が重複する場合で、他の医師と区別するためにわざわざガレノスと副題で明記しているようである。

しかし、ガレノスの著作はキューン版で全21冊、2万頁も超えるほど膨大な量で、仮にトピックを限定したとしてもそこに合わせて抽出すべき作品の選定は難題で、ガレノスの作品をすべて読み通すことは医学を志す者にとって大きな困難を伴う。本報告では、オリバシオスの編纂術のうち、特に食餌療法に関する記述の分析を行った。具体的には『医学集成』の記述、その出典となったガレノス『食物の効能について』を比較した。その結果、『医学集成』は第3巻で各疾患に対する治療にどの食物が適しているのか示され、そこから第1・2巻の食物の個別記述へと遡り詳細を窺うことができるというガレノスの記述よりも簡潔で利便性の高いものであるということが明らかになった。